

【3級・解説】

リスニング

PARTE III (N 8 – N 10)

N 8 a 【正答率】69.0%

F: Andrea è un bambino tranquillo e sportivo. Adora la pallacanestro, la pratica da circa un anno. È molto alto per la sua età, quasi come il suo amico Francesco, che è il più alto della classe. Però Francesco non porta gli occhiali, Andrea invece sì. Deve usarli sempre, anche quando gioca.

DOMANDA: Qual è Andrea?

【訳】(女) アンドレーアは落ち着いた運動好きの男の子です。バスケットボールが大好きで、約1年前からこれをやっています。彼は年齢の割にとっても背が高く、クラスで一番背の高い彼の友人、フランチェスコとほとんど同じくらいです。ただしフランチェスコは眼鏡をかけていませんが、それに対してアンドレーアはかけています。彼はいつもそれを、競技をする時も、使う必要があるのです。

(問) どれがアンドレーアですか？

N 9 b 【正答率】93.6%

F1: Lo scorso fine settimana sono andata a trovare Michela e suo marito.

F2: Ah, e come stanno? Sono secoli che non li vedo...

F1: Sì, da quando sono andati in pensione vengono poco in città. Stanno benissimo. Hanno preso un cane.

F2: Un cane?

F1: Sì, un cagnolino! Michela lo adora. Lo portano con loro dovunque vanno, persino in bicicletta! Lo mettono nel cestino davanti.

DOMANDA: Quali sono Michela e suo marito?

【訳】(女 1) 私、先週末にミケーラと彼女のご主人に会いに行ったの。(女 2) あら、それで彼らはどうしているの？ 私、彼らにずいぶん長い間会っていないわ……。 (女 1) そうよね、彼らは年金生活に入ってからあまり町に来ないわ。とても元気よ。犬を飼い始めたの。(女 2) 犬を？ (女 1) ええ、子犬を！ ミケーラはそれに夢中よ。彼らはどこに行くにも、彼を一緒に連れて行くの。自転車に乗る時も！ 彼を前かごに乗せるのよ。

(問) どれがミケーラとその夫ですか？

N 10 b 【正答率】82.4%

M: Cosa stai facendo, Monica?

F: Perché, non si vede? Sto dosando la farina e lo zucchero...

Lì sul tavolo ci sono le uova, la marmellata di albicocche...

Cosa sto facendo, secondo te?

M: Una... crostata?

F: Bravo, hai indovinato!

DOMANDA: Qual è Monica?

【訳】(男)何を作っているんだい、モニカ？(女)どうして？見て分からない？私は小麦粉と砂糖を量っているところだし……。そちらのテーブルの上にあるのは卵、アプリコットジャム……。私は何を作っているところかしら、あなたの見るところ？(男)タ……ルト？(女)よくできました、正解したわね！

(問)どれがモニカですか？

PARTE V (N 14 – N 16)

N 14 c 【正答率】72.2%

F: Io Elisabetta non la sopporto più. Sempre a criticare... Però lei in casa non fa mai niente, è brava solo a chiacchiere. E come piego le camicie non le piace, e come lavo i piatti non le sta bene... Li lavasse lei, qualche volta, dico io! L'ultima di stamattina? Non le va più bene come preparo il minestrone. Non ci devo mettere il prezzemolo, di sedano ce ne metto troppo, le carote le taglio a pezzi troppo piccoli... Uffa!!

【訳】(女)私はエリザベッタにはもう耐えられないわ。いつも批判してばかり……。そのくせ彼女は家では全然何もしないのよ、得意なのはおしゃべりすることだけ。私のシャツのたたみ方は彼女に気に入らないし、私の皿の洗い方は彼女にすればなっていないし……。たまには彼女がそれらを洗ったらどうなのって言っちゃうわよ！今朝の最新版？私のミネストローネの作り方がもう彼女にとっては不満なの。私はそこにパセリを入れるべきではないし、セロリを入れすぎるし、ニンジン小さく切りすぎているの……。まったくもう！

エリザベッタに言わせれば、この女性は：

- シャツの洗濯のやり方を知らない
- いつも品数を多く作りすぎる
- ミネストローネをちゃんと作っていない

N 15 c 【正答率】60.4%

M: Oggi i taxi sono bianchi, in tutta Italia. Lo hanno deciso nel 1993, a livello nazionale. Prima, però, non era così. Quando ero bambino io erano verdi e neri, almeno qui a Bologna. Poi, all'inizio degli anni Settanta, nelle grandi città il colore delle vetture è cambiato di nuovo, improvvisamente: tutti gialli. E adesso tutti bianchi. Buffo, eh? Chissà perché?

【訳】(男) 今日ではタクシーは、イタリア中で白色です。これは全国規模で1993年に決められました。ですが、それ以前はそうではありませんでした。私が子供だった頃には緑と黒でした、少なくともここボローニャでは。その後70年代初めに、大都市では車両の色が再度変わり、突然、全部黄色に。そして今度は全部白に。こっけいでしょう？ なぜなのでしょうね？

70年代にはイタリアのタクシーは:

- a) まだ緑と黒に塗られていた
- b) 都市ごとに色が違っていた
- c) 突然色が変わった

N 16 a 【正答率】54.0%

M1: Fabio, ti va di andare al cinema stasera?

M2: A vedere cosa?

M1: “Tre piani”, l'ultimo film di Nanni Moretti. Mi hanno detto che è molto bello.

M2: Mah, Carlo, non so... Non ho tanta voglia di uscire. Forse lo danno anche su Netflix o su Amazon Prime, hai guardato?

M1: Eh, no, caro mio, questo lo danno solo al cinema. Oppure dobbiamo aspettare che esca in dvd. Dai pigrone, coraggio, al cinema è tanto che non ci andiamo!

M2: D'accordo.

【訳】(男1) ファビオ、今晚映画に行かない？ (男2) 何を観に？ (男1) ナンニ・モレッティの最新の映画、『三つの鍵』。とてもいいって言われたんだ。(男2) う〜ん、カルロ、どうかなあ……。僕はあまり外出する気がしないんだ。多分 Netflix か Amazon プライムでも配信するんじゃないかな、君は調べた？ (男1) いや、これは映画館でだけの公開なんだ。でなければDVDが出るまで待たなきゃいけない。ほらぐうたら君、元気出せよ、僕たち、映画館にはずいぶん長く行ってないだろう！ (男2) 分かったよ。

ファビオとカルロは:

- a) 今晚映画館に行くだろう
- b) 彼らの家でこの映画を観るだろう

c) この映画の DVD 版の発売を待たろう

PARTE VII (N 21 – N 26)

Secondo ascolto (N 24 – N 26)

F: Siamo oggi in compagnia di Carlo Romoletti per presentare il suo nuovo romanzo, uscito proprio ieri, dal suggestivo titolo “Il buio della notte”. Ci dica, Romoletti: quali sono le caratteristiche di questo che, se non sbaglio, è il suo sesto libro, vero?

M: Sì, il mio sesto romanzo e il mio quarto romanzo poliziesco. È un giallo ambientato a Venezia negli anni Trenta, durante il periodo fascista, e il protagonista è, come nei tre precedenti, l'avvocato Luca Boccia.

【訳】(女)今日は私たちと一緒にカルロ・ロモレッティさんが、ちょうど昨日出版された、『夜の闇』という魅惑的な題名の彼の新作小説を披露しにお見えます。ロモレッティさん、私たちにお話してください、こちらの特色はどういうものでしょう、これは確か、あなたの6冊目の本ですね？(男)はい、私の6作目の小説で、4作目の警察小説です。1930年代、ファシズム時代のヴェネツィアを舞台にしたミステリーで、主人公は前3作と同じく、ルーカ・ボッチャ弁護士です。

N 24 a 【正答率】85.6%

【訳】カルロ・ロモレッティは新作小説を発表したばかりだ

N 25 b 【正答率】54.0%

【訳】彼の最新小説の主人公は有名な警察官だ

N 26 b 【正答率】35.8%

【訳】ロモレッティはすでに6冊の警察小説を執筆した

PARTE I (N 27 – N 48)

N 42/43

【訳】「何て素敵なイヤリングでしょう！」「君の好みですか？ 私の祖母のものだったのですが、私の誕生日にプレゼントしてくれたのです」

N 42 d 【正答率】64.7%

【解説】形容詞**bello**は、名詞の前に付くとき、定冠詞と同じように変化します。母音で始まる男性名詞の複数形に付く定冠詞の**gli**と同じように**begli**となるので、**d**が正解です。

N 43 d 【正答率】56.7%

【解説】**dare**や**regalare**などの動詞を、「与える」「贈る」といった意味の他動詞として用いるときは、「誰に」「何を」を与える[贈る]のか、つまり間接補語と直接補語の両方を表現する必要があります。この設問では祖母が「私に」「イヤリングを」贈ったという文脈ですから、間接補語人称代名詞**mi**と男性複数の名詞を受ける直接補語人称代名詞**li**が結合した形の**d**が正解です。なお、**regalare**の過去分詞は、この**li**に一致して男性複数になっています。

N 44/45

【訳】前の日曜日、私は田舎の両親に会いに行きたかったのですが、天気が悪かったので、家にいました。

N 44 b 【正答率】56.7%

【解説】行きたかったが、実際には行けなかったという文脈です。過去において実現する可能性はあったが、実際には実現しなかった事柄を表すのは条件法過去です。それと同じ内容を、インフォーマルな日常会話などでは、直説法半過去で表現するので、**b**が正解です。

N 45 d 【正答率】46.0%

【解説】「家にいた」という出来事は、「前の日曜日」という特定の期間に起きた、完結した出来事として捉えられていると考えられるので、時制は直説法近過去が適切です。自動詞**restare**「とどまる、居残る」は、近過去などの複合時制では、助動詞として**essere**を用いるので、**d**が正解です。

N 46/47/48

【訳】「君はジルベルトに電話した?」「家にかけてたけど、出ないんだ。もう出かけたのかもしれない。今度は携帯電話にかけてみるよ」

N 46 b 【正答率】51.9%

【解説】「電話する」という意味のchiamareは他動詞なので、電話する相手が直接補語になります。ジルベルトを表す男性単数の直接補語人称代名詞はloであり、hoの前で省略されてl'となるので、b)が正解です。

N 47 c 【正答率】33.7%

【解説】ジルベルトが家の電話に出ないことから、もう家を出たのではないかと推測しているという文脈です。過去の事柄に関する推測を表すのは先立未来であり、自動詞uscire「出かける、出る」は、先立未来などの複合時制で助動詞にessereを用いるので、Sarà uscitoのc)が正解です。

N 48 c 【正答率】61.0%

【解説】〈provare a + 動詞の不定詞〉という形で「～してみる」という意味を表すことができます。不定詞が補語人称代名詞を伴うとき、語末のeを取って直接付けるので、c)が正解です。

PARTE III (N 56 – N 62)

【訳】秋は森がその最上の恵みを与えてくれる時期だと伝統的に考えられていますが、その中でも最も珍重されるのは、疑いなくトリュフです。いくつもの、時にはたいへん高価な品種があり、様々なグルメ食品の原料として、またおいしい料理の材料として利用されています。その意味ではイタリアは間違いなくトリュフの故郷です。その収穫の質と量のためばかりでなく、わが国では最も珍重される品種すべてが育つからでもあります。周知のように、トリュフは地下で生まれ成長するキノコです。その独特の芳香はイノシシやキツネのような様々な野生動物をひきつけ、彼らはこれを食べ、そうすることでその種類が繁殖するのを助けます。そのため、これを採るには、その香りを識別するよう特別に訓練された犬が使われます。トリュフの形状はそれが育つ土壌のタイプに影響されます。つまり、もしそれが柔らかければ球状の外観になるでしょうし、もし逆に固くて石だらけだとその形状はより凸凹になるでしょう。最もよく知られている区分は黒トリュフか白トリュフかというのですが、実際は数多くの種類のトリュフが存在します。とはいえ料理で珍重され利用されるものは少数で、すべてわが国にあり、しばしば特定の地理的地域と結びついています。イタリアの「トリュフの都」をめぐる空想上の旅程では、私たちはまずピエモンテ州の中心部にあるアルバから始めましょう。ここではブドウ畑や歴史ある小さな町や村が一面に広がる丘陵で、あの名高い「トゥーベル・マニャートゥム」が採れます。一般には「高級白トリュフ」と

して知られ、夏の終わりから冬の初めにかけて育ちます。その芳香は数多くの郷土料理に花を添えています。その筆頭は、卵入りの細いタリアテッレである有名な「タヤリン」をアルデンテにゆであげ、フライパンでバターとソテーして、仕上げにトリュフのスライスを散らしたものです。次に私たちはマルケ州の、ロマーニャ地方と境を接する地方にある、アックアラーニャへと移動しましょう。この森ではトリュフの中でも最も珍重される 4 つの品種全てが生育します。「高級白トリュフ」、「高級黒トリュフ」、「マルツォーロ」そして「夏黒トリュフ」こと別名「スコルツォーネ」です。続いてウンブリアの魅惑的な小都市で、まさにその黒トリュフでひととき高名なノルチャに赴きましょう。まず、周辺の森では実に 3 つもの異なった品種が、「高級黒トリュフ」に加えて「冬黒トリュフ」と「夏黒トリュフ」こと「スコルツォーネ」が採られます。そしておしまい、それらを歴訪すれば私たちの旅が続いていけそうなイタリアの地もろもろの中で、外せない最後の目的地がサン・ミニアート、ピサ県にあるトスカーナ州の町です。ここで私たちは、旬の収穫祭やおいしい料理の主役、「高級白トリュフ」に再会することになるでしょう。

(ロベルト・カラヴァッジ『アルバからノルチャまで：イタリアのトリュフ都市めぐり』
www.ilgiornaldelcibo.it 2020年10月7日付に大幅に加筆)

N 56 b 【正答率】81.3%

【訳】「高級白トリュフ」はピエモンテ州でのみ生育する

N 57 b 【正答率】33.2%

【訳】トリュフ採りたちは野生動物をもしばしば活用する

N 58 a 【正答率】93.6%

【訳】トリュフの形は土壌のタイプに左右される